

令和3年度 江戸川区立鹿骨小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○自立と貢献	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・質の高い「知・徳・体」を創造する学校 ・自立し貢献する児童 ・各学年での指導責任を果たす教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt;学校公開の保護者の感想や年度末評価において、おおむね満足をいただいている。「学校での生活や活動を児童が楽しみ元気に登校している」と肯定的評価が高いことはとても喜ばしい。今後も児童に着実に学力をつけ、「勉強が楽しい」と言う児童を育てていく。</p> <p>&lt;課題&gt;全体的に学力は徐々に上がってきてはいるが、高学年になるほど学力達成率が低下している。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・基礎的学習内容が未定着の児童への補習と希望児童への発展学習の推進	・毎週木曜日30分間の「サンライズ教室」(補習教室) ・数学検定、漢字検定の実施	A	B	・児童の学力向上のためにと教員の意識が高まっては来ているが、不十分なところがある。	A	・日頃の取り組みの成果が出でいて、うれしく思う。	・引き続き結果をもとに対策を講じ、より良い結果が出るように努めていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートを活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・書架整理による利用しやすい図書館の実現 ・昼読書の設定 ・読書オリンピックの開催	・週2～3回15分間の読書タイムの設定 ・年間2回の開催	B	B	・静かに読書をする習慣が身についた。 ・年間2回の読書オリンピック開催で、寝て本を読むようになっていく。 ・読書科ノートを計画的に活用したことで、資料の収集の仕方や記録の取り方、自己の考えをまとめ表現	B		・令和4年度は図書館支援員が来るので、学校図書館がより機能的になるように計画的に進め、児童が読書にさらに親しめるようにしていく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・毎朝マラソンの実施と体力テストによる実態把握と目標設定	・12月から「マラソン月間」設定とマラソン大会へ向けての取組	A	B	・教員がもっと率先して児童と一緒に遊んだり走ったりしてはいけない。	A	・先生たちも児童と一緒に走っていて素晴らしいと思う。	・習慣づくまでもう少しなので、引き続き取り組む。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・外国の方をお呼びして、国際交流を通しての国際感覚の醸成	・フィンランドの方を一回お呼びし、講演をしてもらう。	B	B	・交流会は1回開催できたが、オンライン等でもっと工夫できるとよかった。	B		・コロナ禍でもオンライン等できることを行っていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・授業前におけるALTとの打ち合わせの実施	・外国語の授業が楽しいと思う児童80%	B	B	・本年度から外国語専門の講師を招いて授業を行ったことで、より専門性の高い授業を行うことができた。	A	・放課後英会話教室は保護者も喜んでいる。運営している方々に敬意を表する。	・外国語授業には時には担任も入り、学習活動の補助を行う。
特別支援教育の充実	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・職員夕会で共通理解をする時間の設定 ・定期的なアンケートによる児童の実態把握。	・週2回 ・学期に1回	A	A	・不登校気味の児童は数名いたが、不登校にはならなかった。また、不登校児童が登校できるようになった。 (不登校児童は一人もいない)	A	・不登校児童が一人もいないのはすごい。先生たちが児童にきめ細かく対応している証だと思う。	・来年度も不登校児童を一人も出さないよう、諸機関とも連携を強めていく。
	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個性に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・「スマイル教室」の名称を変えて、児童に受け入れられやすくするとともに、休み時間に教室を開放して親しみやすくする。	・週1回	B	C	・スマイル教室を開放する計画を立てていたが、実行できなかった。	B		・特別支援教室を開かれたものにするため、開放時間を設け、教室もできるだけ奥にならないようにする。
	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・全教職員を対象にした研修 ・個別のニーズに対応した研修	・全職員ICT研修年2回 ・ICTを授業で活用する教員8割	B	B	・教員全員がある程度使いこなせるようになった。	B		・今年度同様にICT支援員との連携を図る。
教員の資質向上	初任者研修の充実	全職員で初任者を育てる雰囲気づくり	・全職員が担当分掌について年間を通して計画的に指導していく	年間11回	B	A	・本人の意欲も高く、予想以上の成果が得られた。	B		・職員全員で育てる雰囲気を醸成していく。
	地域との連携	学校応援団など保護者や地域の方々との活動の充実	・放課後英会話教室 ・放課後オンライン学習	・英会話教室月2回 ・オンライン学習月4回	A	A	・学校応援団も日に日に参加者が増えてきている。	A	・学校応援団が少しずつ盛り上がってきてよい。	・屋上ガーデンを機会に交流を深めていく。